

第3号議案 平成30年度長崎市一般会計補正予算（第8号）

〔文化観光部所管分〕

【目次】	(予算説明書)	(資料頁)
[7款 商工費]		
7・1・4 観光費		
《 繰越明許費補正 》		
【補助】景観まちづくり刷新事業費		
南山手地区	58 ~ 59	1 ~ 2
【単独】観光施設整備事業費		
池島炭鉱体験施設	58 ~ 59	3
[10款 教育費]		
10・6・3 文化財保護費		
1 【補助】文化財保存整備事業費補助金		
1 伝統的建造物群保存地区	44 ~ 45	4 ~ 7

文化観光部
平成31年2月

予 算 説 明 書【繰越明許費】				事 業 名	繰越明許費
頁	款	項	目		
58 ～ 59	7 商工費	1 商工費	4 観光費	【補助】景観まちづくり刷新事業費 南山手地区	千円 18,800

1 事業の概要

平成29年4月に長崎市が観光立国の実現に向けて景観の優れた都市の更なる魅力向上を図る「景観まちづくり刷新モデル地区」に選定されたことを受け、南山手地区における景観や周遊性の向上のため、広場等の整備を行うもの。

2 繰越明許費

金額	財 源 内 訳					
	国庫支出金※1	県支出金	地方債※2	その他	一般財源	
予算現額	千円 20,000	千円 10,000	千円 -	千円 9,000	千円 -	千円 1,000
支出予定額	千円 -	千円 -	千円 -	千円 -	千円 -	千円 -
繰越明許額	千円 18,800	千円 9,400	千円 -	千円 8,400	千円 -	千円 1,000
不用額	千円 1,200	千円 600	千円 -	千円 600	千円 -	千円 -

※1:都市再生推進事業費補助（景観まちづくり刷新支援事業）補助率 1/2

※2:公共事業等債 充当率 90%

3 繰越明許費の内訳

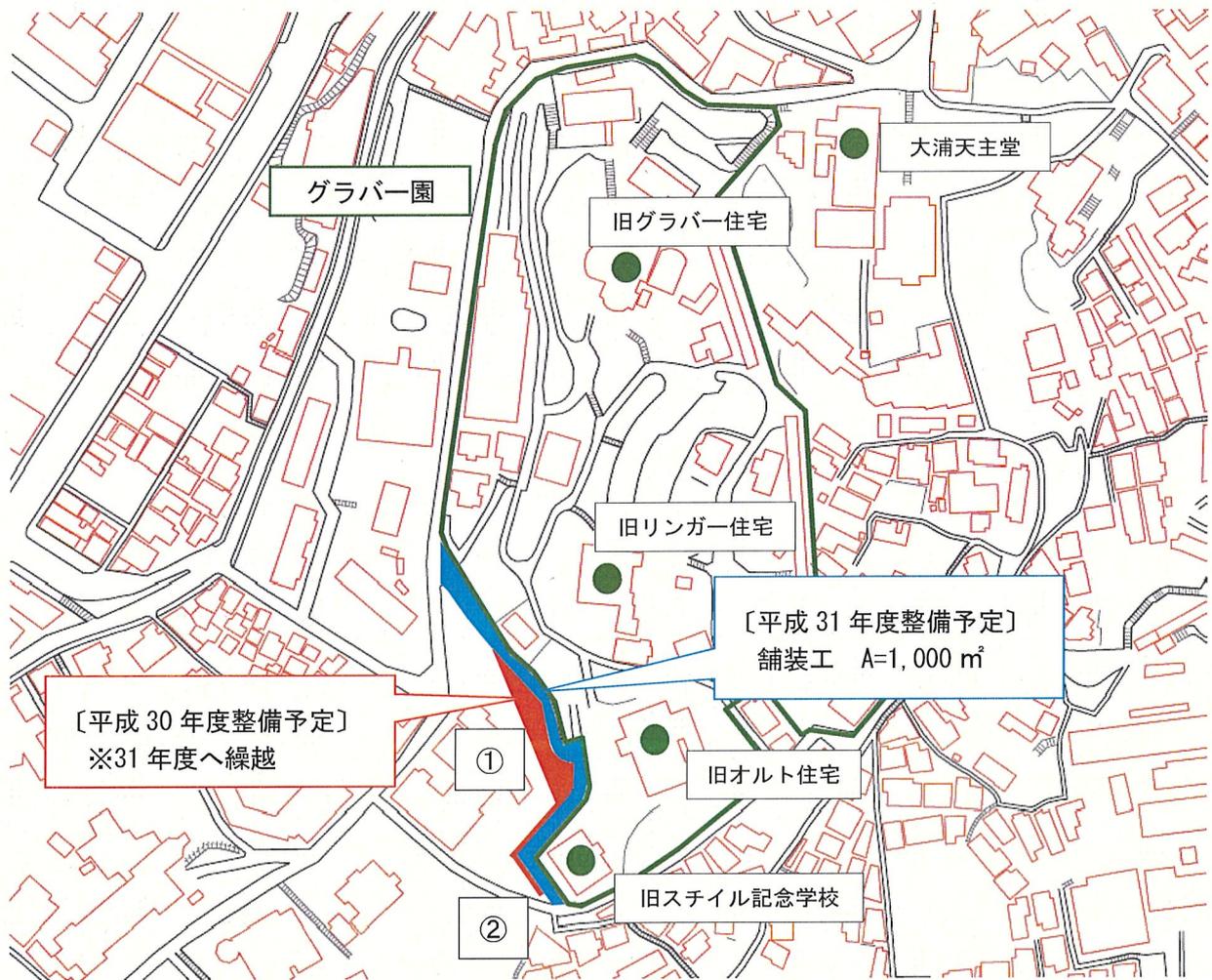
(1)南山手地区環境整備工事 18,800千円

工事延長 L=83.0m、板石舗装 A=80.9 m²、転落防護柵 L=32.0m、ガードパイプ L=31.7m、フェンス修景 L=80.0m、ごみステーション修景1式他

4 繰越の理由

当該地は南山手伝統的建造物群保存地区内であるとともに、市内有数の観光地であるグラバ一園の敷地内にあり、景観上重要な場所である。このことから、景観に配慮した広場の舗装材の選定及びごみステーションや転落防止柵等の工作物のデザイン、眺望を確保するための樹木の伐採等について、国等の関係機関との協議に相当の日数を要し、年度内に工事が完了しないため。

5 整備箇所



箇所	現況	施工イメージ
①		
②		

予 算 説 明 書 【繰越明許費】				事 業 名	繰越明許費
頁	款	項	目		
58 ～ 59	7 商工費	1 商工費	4 観光費	【単独】観光施設整備事業費 池島炭鉱体験施設	千円 7,000

1 事業の概要

九州最後に閉山した炭鉱である「池島炭鉱」は、現在も坑道の一部や当時の機械が現役に近い状態で残され、日本の近代化以降の発展を支えてきた貴重な資産である池島炭鉱の現場を体験することができる施設である。現在、使用している坑道内に入るトロッキの鉛蓄電池が耐用年数を過ぎていたため交換する。

2 繰越明許費

金 額		財 源 内 訳				
		国庫支出金	県支出金	地方債※1	その他	一般財源
予 算 現 額	千円 7,000	千円 —	千円 —	千円 7,000	千円 —	千円 —
支 出 予 定 額	千円 —	千円 —	千円 —	千円 —	千円 —	千円 —
繰越明許額	千円 7,000	千円 —	千円 —	千円 7,000	千円 —	千円 —

※1: 辺地債 充当率 100%

3 繰越明許費の内訳

(1) 電気車用鉛蓄電池購入 7,000千円



4 繰越の理由

観光客の閑散期である1～3月に交換する予定であったが、発注に際し、鉛蓄電池の特殊性から仕様書作成、積算及び関係機関との調整に不測の時間を要したため。

予 算 説 明 書					事 業 名	予 算 額
頁	款	項	目	番号		
44 45	10 教育費	6 社会教育費	3 文化財保護費	1-1	【補助】文化財保存整備 事業費補助金 伝統的 建造物群保存地区	千円 ▲60,000

1 概要

国・県の補助を伴う市の助成事業として耐震補強工事を実施している国選定重要伝統的建造物群保存地区内の伝統的建造物のうち、活水学院本館について、国庫補助の交付決定額が要望額を下回ったため、予定していた工事の一部を翌年度に見送り、予算を減額補正するもの。

2 事業内容

(1) 助成内容 国選定重要伝統的建造物群保存地区内において、特定された伝統的建造物の保存修理事業に対して補助を行う。(伝統的建造物 補助率：対象事業費の2/3)

(2) 対象事業費

ア 活水学院本館（東山手）：伝統的建造物の耐震補強工事（第Ⅲ期）

建築年月日 大正15年11月

特定年月日 平成2年10月23日（保存計画告示）

事業者 学校法人活水学院 理事長 深澤 奨

イ マリア園（南山手）：伝統的建造物の耐震診断・耐震補強設計

建築年月日 明治31年

特定年月日 平成2年10月23日（保存計画告示）

事業者 森トラスト株式会社 代表取締役社長 伊達 美和子

(3) 対象事業費

区 分	予 算 額	事 業 内 容
当 初	千円 432,746	活水学院本館 406,891千円(事業費 610,336千円) マリア園 25,855千円(事業費 38,782千円)
補 正 額	▲60,000	活水学院本館 ▲60,000千円(事業費 ▲90,000千円) [大チャペル吊天井補強・小チャペル木部蟻害対策工事等の減]
補 正 後	372,746	活水学院本館 346,891千円(事業費 520,337千円) マリア園 25,855千円(事業費 38,782千円)

3 財源内訳

補助対象	予算計上額	財源内訳		
		国庫支出金 ※1	県支出金 ※2	一般財源
当初	千円 432,746 (2/3)	千円 216,372 (5/10)	千円 86,549 (2/10)	千円 129,825 (3/10)
補正額	▲60,000	▲30,000	▲12,000	▲18,000
補正後	372,746	186,372	74,549	111,825

※1 国宝重要文化財等保存・活用事業費補助金 補助率1/2
(重要伝統的建造物群基盤強化事業、観光拠点形成重点支援事業)

※2 指定文化財保存整備事業補助金 補助率1/5

5 参考

(1) 対象建造物の事業実績等

ア 活水学院本館（耐震対策）

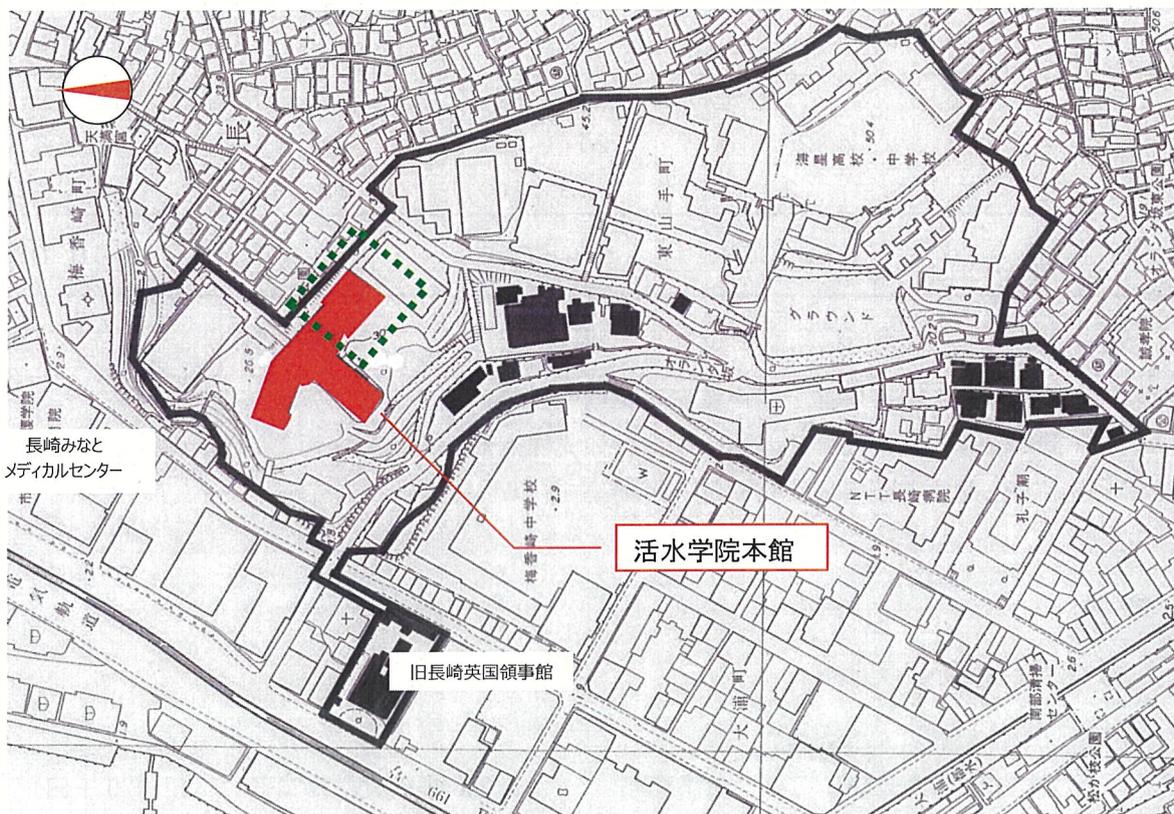
H26年度 [決算額]	: 耐震診断	8,280 千円	(総事業費 12,420 千円)
H27年度 [決算額]	: 耐震設計	11,775 千円	(総事業費 17,663 千円)
H28年度 [決算額]	: 耐震工事	143,162 千円	(総事業費 214,743 千円)
H29年度 [決算額]	: 耐震工事	312,180 千円	(総事業費 468,271 千円)
H30年度 [決算見込額]	: 耐震工事	346,891 千円	(総事業費 520,337 千円)
H31年度 [予定額]	: 耐震工事	84,930 千円	(総事業費 127,395 千円)

イ マリア園（耐震対策）

H30年度 [決算見込額]	: 耐震診断・設計	25,855 千円	(総事業費 38,782 千円)
H31年度 [予定額]	: 耐震設計・工事	41,653 千円	(総事業費 62,480 千円)

(2) 対象建造物の位置及び外観

ア 活水学院本館



イ マリア園

